

# 6GHz帯無線LANにおける AFCシステムの運用体制等の検討開始

---

令和6年10月11日  
事 務 局

# AFC導入に向けた検討体制

- 我が国において、AFCシステムの導入を実現するため、無線設備の技術的条件やAFCシステムのプロトタイプ構築、運用体制の整備の検討などが必要である。

情報通信技術分科会陸上無線通信委員会

## 5.2GHz帯及び6GHz帯無線LAN作業班

構成員：梅比良主任ほか 事務局：基幹通信室

### 【無線設備の技術的条件】

- ・6GHz帯高出力無線LANと既存無線通信システムとの周波数共用条件の検討

### 【AFCの構築・動作検証】

- ・実環境下でAFC機能を検証するための技術試験事務（海外動向、プロトタイプ構築・動作検証、技術的条件の検討に係る調査を実施）

請負事業者：日本電気株式会社

5.2GHz帯及び6GHz帯無線LAN作業班

## AFCシステム運用検討アドホックグループ

構成員：高田主任ほか 事務局：基幹通信室

### 【AFC運用体制等の検討】

- ・6GHz帯無線LANの周波数拡張・屋外高出力利用に必要なAFCシステムについて運用体制や運用モデルのあり方等について検討する。

### 【主な議題】

- ・諸外国における導入事例の検証
- ・我が国における運用体制（運用主体等）や運用モデル（収支モデル、費用負担のあり方等）についての検討 など

## 1 アドホックグループの構成

- (1) AFCシステム運用検討アドホックグループは、5.2GHz帯及び6GHz帯無線LAN作業班主任から指名された者により構成される。
- (2) アドホックグループに主任を置き、作業班主任から指名された者がこれに当たる。

## 2 アドホックグループの運営

- (1) 主任は、アドホックグループの調査及び議事を掌握する。
- (2) アドホックグループは、主任が招集する。主任はアドホックグループを招集する際は、構成員にあらかじめ日時、場所及び議題を通知する。
- (3) アドホックグループは、構成員に調査の協力を求めることができる。
- (4) 主任は、必要があると認めるときは、アドホックグループに、必要と認める者の出席を求め、意見を述べさせ又は説明させることができる。
- (5) その他、アドホックグループの運営については、主任が定めるところによる。

## 3 会議及び資料の公開

アドホックグループの会議、当該資料及び議事概要は原則、公開とする。  
構成員から提出のあった資料については、当事者又は第三者の権利、利益及び公共の利害を害することのないよう留意する。

## 4 事務局

事務局は、総合通信基盤局 電波部 基幹・衛星移動通信課 基幹通信室とする。

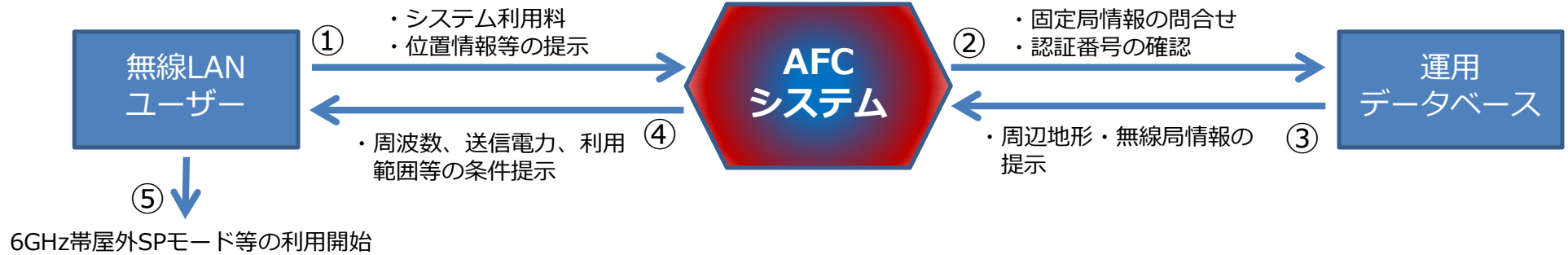
# AFCシステム運用検討アドホックグループ構成員一覧

(敬称略、主任以外、氏名五十音順)

No.	氏名	所属
主任	1 高田 潤一	東京科学大学 執行役副学長 (国際担当)
	2 安藤 憲治	電気事業者連合会 情報通信部 副部長
	3 井原 伸之	株式会社フジテレビジョン 技術局 技術戦略部 部長
	4 木村 亮太	ソニーグループ株式会社 デジタル&テクノロジープラットフォーム アドバンステクノロジー
	5 小林 佳和	日本電気株式会社 BluStellar セールス統括部 第3 テックセールスグループ 技術主幹
	6 成清 善一	日本放送協会 技術局 計画部 チーフエンジニア
	7 平松 正顕	国立天文台 天文情報センター 周波数資源保護室
	8 森 祐治	PwCコンサルティング合同会社 戦略コンサルティング部門 パートナー
	9 吉田 英邦	無線LANビジネス推進連絡会 企画・運用委員会 委員長

# AFCシステムの運用イメージと想定される主な課題等

## ■ AFC運用イメージ



## ■ 想定される主な課題等

主な課題等	主な内容	関連部分
運用体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運用主体 (運用主体となりうる条件は何か、必須要件・限定要件はあるか)</li> <li>・AFCシステムの管理体制 (システム運用主体とデータ管理、ユーザー管理等の主体は同一にすべきか分けるべきか)</li> <li>・お問い合わせ窓口 (連絡窓口、事故受付など)</li> </ul>	②④
ビジネスモデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AFCシステム構築費用 (導入コストはどの程度必要か)</li> <li>・ランニング費用 (運用管理コストは年間どの程度必要か)</li> <li>・収支モデル、費用負担のあり方 (誰からどの程度回収するとコストに見合うのか)</li> <li>・費用回収の手法 (機器装置にアドオン、数年分まとめて回収など)</li> </ul>	①⑤
実運用上の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運用データベースの管理のあり方 (更新頻度など)</li> <li>・AFCシステムへの問い合わせ頻度 (米国は1回/日)</li> <li>・セキュリティ対策の必要性 (サイバー攻撃の対象になる恐れもある)</li> <li>・システム運用のエリア (当初はエリアを限定して導入すべきか)</li> </ul>	①②③④⑤

## ■ アウトプットイメージ

AFC運用指針案（仮）において、上記の課題等に対する考え方・方向性などを整理し、提示する。

（その後、「AFCプロトタイプ」構築後の実証等を踏まえ、改めて運用指針案をアップデートすることも検討）

# AFC運用検討アドホックグループ検討スケジュール案

